

恵光寺



上・本堂入口
山号寺号掲額文字は、
加藤瀧二川越市長(当時)の
揮毫による

中・本堂へ登る

下・本尊(内陣)へ向って、導師と
参列者一同、
阿弥陀経を唱和する
(創立三十周年記念法要の時)



内陣落慶法要・導師は芝原師

物心併せたご助勢を得て
今日に及んでいます。その
頃、仏教伝道協会発願者・
沼田恵範氏から、氏の親友
で川越市長だった加藤瀧
二氏と共に「関東に少ない
念仏道場の建立に協力を」
と誘われました。

その時の私は、TV番組
制作の拡充に押しつぶさ

親鸞聖人との最初の出会いは、私が未だ幼かった頃、祖母に手を引かれて
「しもた屋造り」の念仏寺にお参りした頃で、再度の出会いは、私がNHK
在職時、日本中が東京五輪で湧く中、ラジオドラマ『親鸞』を制作・放送し
た折に「聞き逃したから是非聞かせてほしい」と京都放送局を経て浄土真宗
西本願寺の大谷嬉子裏方からの要望にお応えした時です。

それ以来、本山や大谷家との私的な交流が始まり親鸞聖人への畏敬の念
もまた新たにしました。

その後、本山や築地本願寺で行われた親鸞聖人七〇〇回遠忌法要のお手
伝いをして本山とご縁も深まりました。

一方、築地本願寺を拠りどころにした東京親鸞会(現在は大谷光照前門主
の妹君・近衛正子氏が二代目会長で、兄弟のようなご厚誼を得た法友・吉
澤孝司氏と一緒に、社会を学ぶ学習の場を作り、前門様から要会と命名して
頂き、以後、永くご教導をいただき、前門様ご遷化の後も盛会裡に続けられ
ております。しかし、吉澤氏は五十代半ばにして早々とお浄土へ還られ、の
ち、吉澤氏の姉・美智子氏から「弟に代わって」と、多額のお布施の進納や



内陣落慶法要・導師に唱和する参列者

れそうに生死をさ迷う大病をし
ていました。「過労で窓際族にな
った人や少子高齢化のいま、孤独
に悩む人も多いだろう。そんな人
が安心して座れる場所を用意し
たい。それは親鸞聖人の信じる阿
弥陀如来のご尊前だ。」と強く信
じ、妻・良子に心情を吐露しまし
た。良子は「あなたの思いは私の
思い。でも、あなたは病人だから
ベットに寝ていて下さい。仏教の
ことはよく知らないが」と、東
京仏教学院に二年通って学び本
山から住職の資格を許されまし
た。川越の西隅に得た僅かな土地に建物を建て、良子住職を中心にした開教
が始まりました。建設資金は私が所有する不動産を担保に銀行から借り入
れた業務用資金に、寄進されたものを併せて用立てました。

一方、私が本山のお手伝いをしたり、NHKでの仕事の内容や十年程続け
た自宅での研修の集い等が埼玉県庁に評価されて宗教法人の認証を得ると
共に、当時の築地本願寺輪番・芝原郷音師や埼玉組長小野島泰雄師がたの
ご高配も得て本山末寺として埼玉組に加えていただきました。

平成二十二年五月、無事に創立三十周年を迎えられた時に良子住職は、本
山から住職在位三十周年の永年勤続の表彰をしていただきました。

いまた、長男の妻・淳子が「二代目住職」を目指してご門徒の輪の中で
研鑽を積んでおります。